事業計画より転記してください

1年目　年度末報告書	
1. 事業名	**若者の木造建築学習を通じた山村再生事業**
2. 実行団体名	**学生団体　加子母木匠塾**
3. 実施期間	**2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日**
4. 報告期間	**2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日**
5.事業進捗に関する報告（概要）	**進捗状況**
中長期アウトカム 都市部の若者たちが、山村地域と関わる機会が多く創出され、そうした若者が気軽に再訪できる交流の機会や活動の拠点が整備され定着している。若者は地域や人との関わりの中で社会に参加する基礎力を身につけ、地域は、若者たちの視点、活力を受け入れることにより、共創的な関係社会が構築され、農山村のコミュニティの維持、森林生態系や環境問題等の解決に向けた活動が展開されている。	
短期アウトカム 1．在学中のみならず社会人となっても、地域と係わり続けていける関係性が生まれている。 2．建築系以外の多分野の学生と連携することにより、視野と経験が深まり社会人としてのキャリアが向上している。 3．ＯＢや他の取り組みとの連携により、新たなビジネス展開や地域との関係づくりが構築されている。 4．地域の中に、若者たちを受け入れることによって、新しい関係性をもったコミュニティが形成される。 5．取り組みへの理解を深めてもらうことにより、森林整備や国産材利用の重要性の認識が高まっている。	1．加子母木匠塾同窓会（OB 会）を組織し、社会人となっても、地域と係わり続けていける基盤が構築されつつあり、計画どおり進んでいる 2．コロナ禍の影響により限られた人数ではあるが、aichikara のメンバーや他で地域と関わりのある学生とのつながりが生まれ、計画どおり進んでいる。 3．地域資源活用アイデアコンペを通じ、ＯＢである大学教員や建築士との関係性が生まれ計画どおり進んでいる。 4．大人数での往来は不可能であったが、コアメンバーが地域に滞在しながら地域住民の理解を得ることができ、計画どおり進んでいる。 5．世界的なコロナ禍の影響により国産材が不足する状況に陥り、森林整備や国産材について注目されることも相まって、計画どおり進んでいる。

アウトプット 1. 社会人としての必要なスキルアップと過疎地域の活性化に取り組む状況が生まれる。 2. 事業を継続、発展させていくために OB 会組織を強化する。 3. 集落の機能維持活動や地域行事に学生、OB が継続的に参加する。 4. 学生や OB が主体となり地域の将来について考え、地域への提案などを行う。 5. 木造建築実習を通じて、国産材利用の重要性を学びながら、地域施設を整備する。	計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている／その他（　　） 1. 学生時代に農山村の現状や課題を共有する貴重な機会であり、継続的に関係性を保ち続ける必要性を実感することができ、計画どおり進んでいる 2. OB 会の組織化と活動史編纂に向けての準備も始まり、計画どおり進んでいる 3. コロナ禍の影響により地域行事も中止され、都市部との往来も制限され、計画より遅れている。 4. 森林空間の活用コンペを通じて、地域との意見交換や OB からもアドバイスを受けながら提案をまとめるなど、計画どおり進んでいる。 5. コロナ禍の影響により、現地での木造建築実習が行えなかったため、計画より遅れている。

6.事業進捗に関する報告（詳細）

1-1 ７月上旬まで夏休み期間中の８大学３００名規模の木造建築実習を通じたフィールドワークの実施を模索したが、コロナ禍の影響により断念せざるを得なくなり、代表者により地域調査を行い、オンラインで全体に共有する手法を用いながら、地域資源調査と活用アイデアコンペを行い、１０月には地域向け報告会を実施した。

1-2 地域住民と直接交流する機会が失われてしまったが、住民に対しては学生たちの熱意が伝わり培ってきた信頼関係を保つことができた。ただ１年間大多数が現地へ赴くことができなかった影響は大きく、初歩的な部分から再構築する必要が生じている。

2-1 過去 25 年間で木匠塾活動に参加した OB への働きかけを行い、OB 会組織の立ち上げを行った。木匠塾 HP からも随時加入手続きができるように整備したので、引き続き参加を呼び掛けながら、社会人となっても地域との関係を結び付けていける仕掛けを検討していきたい。

2-2 名古屋、京都、東京など都市圏での説明会や交流会の開催は、コロナ禍の影響により実施できなかったが、SNS 等を通じて、地域や活動状況の発信を行った。

3-1 馬瀬川プロデュースと連携し、馬瀬地域の遊休農地調査などを行ったが、感染防止に配慮し、米づくりの実践や農業体験などの活動は実施できなかった。

3-2 馬瀬川の河川清掃作業などにも参加したが、コロナ禍の影響により地域行事もほとんどが中止になってしまい参加の機会が失われてしまったが、南飛騨馬瀬観光協会の方にオンラインセミナーを。

4-1 ３月には中津川市の域学連携事業報告会にも参加し、他大学の取り組みを学びながら地域課題に取り組む重要性を再認識することができた。

4-2 今後もコロナ禍の状況に大きき影響を受けるが、常に最適な手法を検討しながら、コロナ後を見据えた地域活性化プランを提案、実践することが重要であると考える。

5-1 地域要望に応じた木造の製作物の建築実習は、同様の理由でできなかったが、地域資源を活用した提案や木製品プロダクトなどはコロナ禍でも実施可能な取り組みを模索しながら随時行っていきたい。

5-2 世界的なコロナ禍の影響により“ウッドショック”といわれる国産材不足の状況が生じている。木造建築の技法のみでなく 森林整備から国産材利用の重要性を再認識する機会ととらえ、プロジェクトの中でも取り組んでいきたい。

7.資金計画に関する報告

① 資金計画どおりの執行状況ですか。 ： 計画どおり進んでいる ／ 計画より遅れている ／ その他（ ）

→①で「計画どおり進んでいる」以外を選択した場合の理由：当初 8 大学 300 名規模の参加を見込んでいたが、コロナ禍の影響により活動を縮小した。

② 報告年度に用意する予定だった自己資金は集めることができましたか。： 計画より進んでいる ／ 計画どおり進んでいる ／計画より遅れている

→②で「計画より遅れている」を選択した場合の理由：現地での活動が縮小したため、自己資金となる参加費を集めることができなかった。

8.報告期間における課題と次年度にむけた取り組み

全国 8 つの大学で建築を学ぶ 300 名もの学生が、木造建築を共通テーマに山村地域に集い、地域住民とのふれあいの中で得る体験は貴重な学びの機会となるが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、当初計画の規模で開催することは困難であった。このため、大学や地域の対応を踏まえながらオンラインでの情報交換を図りながら、木匠塾としての活動の継続性を模索した。このこと自体も社会情勢の中で学びとして得るものがあったと感じる。引き続ききびしい状況が予想されるが、初年度に立ち上げた OB 会組織のネットワークを強化しながら、自らの学びと地域課題の解決を結び付けながら、活動の成果を高めていきたい。

9.広報に関する報告

・メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）：
2020.8.27「加子母のため 施設活用提案へ」岐阜新聞 ※PDF 添付
2020.12.24「東海農政局農山漁村の宝にかしも木匠塾選出」中日新聞 ※PDF 添付

・広報制作物等：該当になし

・報告書等：中津川市 域学連携報告会にて活動報告

10.規定類の整備に関する報告

① 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。： 完了 ／ 整備中

② 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。： 全て公開した ／ 一部未公開 ／ 未公開

→②で「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：6 月下中の予定

③ 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。： はい ／ いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：変更なし

11.ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

① 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。： はい／いいえ

→①で「いいえ」を選択した場合の理由：

② 内部通報制度は整備されていますか。： はい ／ いいえ

→②で「はい」の場合は、設置方法（複数選択可）： 内部に窓口を設置 ／外部に窓口を設置 ／JANPIA の窓口を利用

③ 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。： はい ／ いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：現役大学生の組織のため

④ 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。： はい ／ いいえ

→④で「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ コンプライアンス委員会（※）は定期的に開催されていますか。： はい ／ いいえ

※コンプライアンス委員会を設置していない実行団体は、担当部署または担当者に報告の対象となる不正行為を資金分配団体に報告済かを回答してください。
報告の対象となる不正行為とは、資金分配団体-実行団体間の資金提供契約書第 15 条に定めるものです。
→⑤で「いいえ」を選択した場合の理由：今年度は幹事会がオンライン開催だったため
⑥　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)：　内部監査を実施／外部監査を実施／実施する予定がない
→⑥で「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

13.活動の写真

馬瀬川河川清掃作業に参加

GIS を用いた遊休農地マップの制作

馬瀬地域座談会での意見交換